

クリスチアン・フェイゲルソン氏講演

CHRIS クリス・マルケル MARKER

講演「クリス・マルケルの記録/記憶したソ連」

「思い出とは忘却の逆ではなく、むしろ忘却の裏側なのだ。僕たちは思い出すのではなく、歴史を書き直すように記憶を書き直す。」

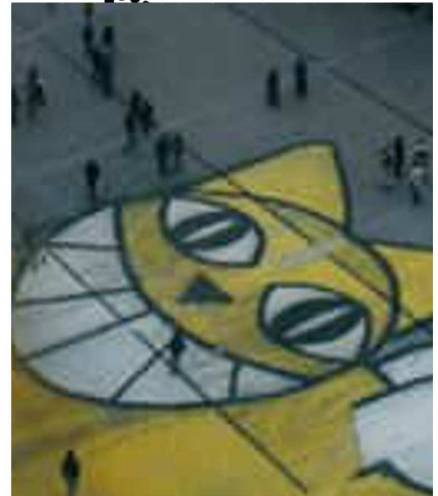
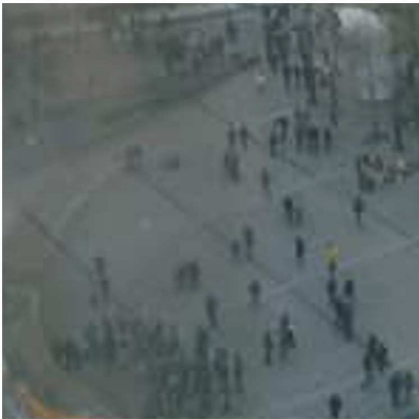
このように記憶をとらえるクリス・マルケル監督の映画作品は、ドキュメタリーもフィクションも、アニメーションも切り貼りも、あらゆる映像手法を駆使し、時空間を超越して記憶をたどる旅へのいざないである。

虚構と忘却のベールに包まれたソ連にマルケルはなにを見出そうとしたのか。

クリスチアン・フェイゲルソン教授をむかえ、クリス・マルケル作品に描かれたソ連・ロシアのイメージについてお話しいたします。
(使用言語：ロシア語 通訳：北川和美)

※取りあげる作品

- 『シベリアからの手紙』(1958)
- 『アレクサンドルの墓/最後のボルシェヴィキ』(1993)
- 『アンドレイ・アルセニエヴィッチの一日』(1999)
(英語版のフラグメント上映あり)



■日時
2019年1月17日(木)
17:00~20:00

■場所
東京大学本郷キャンパス
法文1号館114教室



講師プロフィール

クリスチアン・フェイゲルソン教授

社会学者、ソルボンヌ・ヌーヴェル・パリ第3大学映画視聴覚研究科教授。
研究テーマは映画と視聴覚の社会学、文化論、映画・視聴覚芸術史。ロシアとソ連に関する著書が多数ある。

連絡先：slav.lecture@gmail.com (橋岡)

主催：東京大学文学部スラヴ語学スラヴ文学研究室

日本語通訳付き 事前申し込み不要

タルコフスキー（クリス・マルケル『アンドレイ・アルセニエヴィッチの一日』）についての話を中心にします。